★必要なら米軍の介入を承認する＝フアン・グアイド

ベネズエラのグアイド国会議長（暫定大統領を自己宣言）は米紙ワシントン・ポストのインタビューに応じて、4月30日のクーデター未遂事件などについて詳しく語った。以下はその記事の全文。

ベネズエラの野党党首フアン・グアイド氏は５月 4 日、軍事蜂起を扇動した際に誤りを犯したことを認めた。また国軍と一緒に行動する米軍の選択肢を否定せず、米国から申し出があれば国会で投票にかけると述べた。

マドゥーロ大統領を追放する秘密計画が失敗した劇的な週の後、グアイド氏は野党が軍の中での支持を誤算したことを認めた。

ワシントン・ポスト紙との独占インタビューでグアイド氏は、彼が軍内の造反のうねりの中でマドゥーロ退陣を期待していた。しかし一般兵士と高官にマドゥーロを見捨てるようよびかけたものの、大量の離反者はでなかった。 マドゥーロの治安部隊は街頭デモを鎮圧し、米国の支援をうけたグアイド派の野党は退散した。

グアイド氏は「多分野党を支持し憲法を守る兵士と士官の数が足らなかったからだと思う」「現時点でその数は明らかに変えられる」とのべた。

グアイド氏は、一月に国会議長に就任し、マドウーロ政権を権力の簒奪者だとし暫定大統領を宣言した。彼は米国による一方的な軍事介入は支持しなかった。米軍の支援はマドゥーロに反旗を翻したベネズエラ軍と一緒でなければならないと明確にのべたが、何が許容できるかについて詳細を語らなかった。

トランプ政権は、すべての選択肢がテーブルの上にあると言ってきた。そのタカ派は可能な軍事介入を求めてペンタゴンに圧力をかけている。しかし政権はマドゥーロに対する介入を支持するかどうかを明確には伝えていない。

ジョン・ボルトン大統領補佐官から米国の介入をよびかけられたらどうするかとの質問にグアイド氏は、次のように返事するだろうと述べた。 「ボルトン大使どの、ベネズエラの大義にたいする援助に感謝します。オプションをありがとう、我々はそれを評価します。そしておそらくこの危機を解決するために議会でそれを検討するでしょう。 そして必要なら、多分我々はそれを承認するでしょ

う」

この発言は、米国の軍事的支援という微妙なテーマについてグアイド氏がこれまでに出した最も強力なものの一つだ。米軍の軍事支援はマドゥーロに反対するベネズエラ人の間でさえの大部分は不評のままのオプションである。グアイド氏は、軍事的選択肢に関する米国の最近の熟議を歓迎し、それらを「素晴らしいニュース」と呼んだ。

「これはベネズエラにとって素晴らしいニュースです。私たちはすべての選択肢を評価しているからです。 米国のような重要な同盟国が選択肢を評価していることを知っておくのは良いことです。 それによって私たちは、必要とするときには米軍の協力を得られるということを知ることができるからです」

「私は今日、ベネズエラ軍の兵士のなかに[左翼ゲリラ]をやめさせ、人道援助の搬入を助けたいと願っている人たちがたくさんいると考えています。彼らは（マドゥーロによる）権力の簒奪を終わらせるための協力を喜んで受けいれるでしょう。その中に米国のような名誉ある国々の協力があるなら、私はそれが一つの選択肢になると思います」

しかし５月 30 日の蜂起が失敗した後、グアイド氏は今、２正面の闘いをしているのかもしれない。マドゥーロを追い払うことと野党の統一をたもつことの両方だ。

グアイド氏は 35 歳の工業エンジニアで、ベネズエラのカリブ海沿岸出身の元学生リーダーだ。彼が野党の支配する国会議長に就任して以来、新たな希望に火をつけた。国会は 2017 年にマドゥーロから権限をはく奪されたが、国内で唯一の民主的機関として国際的に広く認められている。グアイド氏は衝突の後、「すべてのベネズエラ」に街頭に打って出るようよびかけている。

野党党首のグアイド氏は、ベネズエラ人に 4 月 30 日の抗議を呼びかけ、軍にたいしてマドゥーロ大統領追放のために「前進し続ける」よう促した（ロイター）

自分がベネズエラの正当な暫定大統領であるというグアイド氏の主張は、50 カ国以上に認められており、トランプ政権によって強く支持されている。 グアイド氏は、彼が今週ずっと米当局者と連絡を取っていたと述べた。

しかし慎重に計画されたマドゥーはずのマドゥーロ排除計画、このなかには政権に忠実な幹部たちとの交渉が含まれていたが、それが不調に終わったため、野党のなかに亀裂を生みだした。何人かの上級指導者たちは何が悪かったのかについての批判を出した。 こうした批判は、野党から最近数カ月で唯一最強の資産ともいえる「団結」を奪う危険がある。

不満を募らせた野党メンバーの何人かは、レオポルド・ロペスが計画を台無しにしたと非難している。グアイド氏のメンターであるロペス氏は４月 30 日の朝、自宅軟禁から逃れてグアイド氏に合流していた。

ロペス氏は、４月 30 日にマドゥーロに反旗を翻すと考えられていた政府支持者との秘密交渉を計画した中心人物の一人だった。 しかし内部事情に通じた人にいわせると、脱出後に軍事基地に意気揚々と姿を現すことは予想されていなかった。 マドゥーロ忠誠派の何人かの幹部が大統領の強制排除する態勢を整えるという慎重に練られた計画を混乱させたかもしれないと主張する人たちもいる。

マドゥーロ政権内部にその地位を離れるよう実際にどう説得したかは謎のままだ。グアイド氏は、交渉についても野党の計画の詳細も議論しないだろう。 しかし、こうした内部からの批判は、１月のグァイド氏台頭前は分裂していてほとんど効力がないとみられていた野党にとって新たな挑戦となっている。

ベネズエラの政治アナリスト、カルロス・ロメロ氏は「この事件はベネズエラ政治を揺さぶった」「人々は混乱し、傷つき、やる気を失っている」と述べた。同氏はまたスペイン語で一人の人間による異端の行為を示唆する言葉を使って「政治家のなかにはそれをレオポルド化と呼ぶ人もいる」とのべ、次のように続けた。 「その影響を最も受けたのはグアイド氏です。彼は自分を統一指導者として売り込んできたが、自分自身を売っていました。 そのような立場でレオポルドと一緒に現れることは、いく人かの指導者の彼に対する信頼を低めるかもしれません」

グアイド氏は彼の政治的指導者であるロペス氏の行動について、短くあまり気乗りしない弁護をし、「私はそうは思わないが、いいえ、そうは思わないし、そういう情報は持ち合わせていない」と述べた。

グアイド氏は野党の内部分裂をなんとか軽く見せようとしたが、「団結は疑問の余地がありません。特定の問題でいくつかの違いがあるのはいつものことです

が、野党だけでなく市民社会としても一つの理由が私たちを結びつけると思います」と述べた。

ポンペオ国務長官がマドゥーロに反旗を翻そうとしていた陰謀家たちの名前～パドリノ国防相もその一人～に言及したことで、野党による交渉を難しくしたかどうかの問いに、グアイド氏は、難しくしたどころかポンペオ長官の動きは「重要な支援」の表明だとした。

彼は、計画は前進しており、それは国際的圧力、マドゥーロ忠誠派への懇請、そして街頭デモの組み合わせのままである、とのべた。しかし同氏は、街頭での憔悴と欲求不満のというさらなる挑戦に直面している。

汚職、管理ミス、そして政策の失敗によってベネズエラは絶望的な状態に陥った。飢餓を引き起こし、移住者の大量流出と公衆衛生システムの崩壊、そして電力網と水道網を崩壊させた。 さらに、政府に抗議する人々は治安部隊による暴力的な弾圧に会っている。先週も 4 人が死んだ。

失敗した蜂起の直後 、5 月 1 日のデモには何万人も参加した。しかし４日までにグアイドがよびかけた軍事施設にむけた行進は大部分が線香花火に終わり、以前の抗議の群衆の数には及ばなかった。

彼は「私たちはこれを 20 年間続けてきた」とのべた。「イライラしたり飽きたりすることはあるが、ベネズエラ人は常に必要な時は再びたたかうということを示してきた」と述べた。
（後略）